

国土交通省

「巨大地震のサバイバル 住まいの耐震編」と先生用ガイドを小学校に配布 [🔗](#)

(独)住宅金融支援機構

フラット35利用者向けに楽天ポイント15万ポイント進呈サービス [🔗](#)

積水化学工業

工業化住宅の長寿命化実態解明を目指し東京大学・東京工芸大学と連携 [🔗](#)

LIXIL

スマートホームで福祉現場を支援する次世代グループホームの実証プロジェクトに参画 [🔗](#)

サンゲツ

接着剤・釘不要の工法を採用したフローリングを発売 [🔗](#)

今週のトピック解説

DAIKENが業界初の次世代床材を発売

基材へのダイレクト塗装で高意匠・施工性・安定供給実現

DAIKENは8月21日、独自の多彩塗装技術を用いた業界初のダイレクト塗装・複合フローリング「Artio(アーティオ)」を発売した。従来の床材のように天然木突板や化粧シートを基材の上に貼り合わせるのではなく、デジタル制御で基材表面へ直接高精細な塗装を施す新製法を開発。職人不足や高コストで導入が難しかったヘリンボーン調やパーケット調などの高意匠デザインを一般的な施工方法のまま実現可能にした。

開発の背景には市場ニーズの変化がある。近年、住宅空間における床材選びでは、従来求められてきた耐久性やメンテナンス性といった性能面に加え、空間全体の雰囲気を決める意匠性や質感が強く求められるようになってきている。特にヘリンボーンやパーケットといった意匠パターン、本物の木や石のような質感表現への需要が急増している。

しかし、従来の天然木を用いた突板化粧床材は風合いに優れるものの、素材由来の個体差や高コスト、資源の安定供給に懸念がある。一方、市場の約8割を占めるシート化粧床材は品質安定性や価格に優れるが、一定ピッチで同一の柄が繰り返されるため、デザインの自由度や立体感に限界があった。また、天然木で複雑な柄を組む施工はピースが細かいことから作業負担が大きく、職人不足も相まって採用のハードルとなっていた。

こうした「高い意匠性」「施工のしやすさ」「安定供給」を同時に満たす床材として開発したのが「アーティオ」だ。全26種の豊富なラインアップを用意。柄と同調したエンボス(凹凸)加工や、四周の面取り部・溝部にまで施された塗装により、シート材にはない豊かな質感と立体感を作り出している。デザインデータ自体を自社管理するため、小ロット対応や長期的な柄の再現、特注対応にも柔軟に応じる。施工面においても、標準的な1×6尺の板材(303mm×1818mm、12mm厚)として仕上げているため、一般的なフローリングと同じ簡単な施工でヘリンボーン調などの高意匠を実現できる。

アーティオの製品化には、着想から約4年もの開発期間を要し、約8億

円を投じて三重県の工場に専用生産ラインを新設した。ハードルとなったのが、基材の反りを抑えることと色の安定的な再現であった。内装材事業部の伊東達哉次長は「工場で量産品として均一な品質を維持し続けることが最難関だった。長年培った床材製造と塗装の知見を結集し、専用の下地処理と高精度なデジタル制御を組み合わせることで課題を克服した」と説明する。

同社は2026年4月に始動した長期ビジョン「TryAngle 2035」に

において、「選ばれる新スタンダードの創出」を掲げている。木質系床材で国内トップシェアを誇る同社にとって、アーティオはその象徴的製品となる。専用生産ラインを新設し、継続的に育成、拡大していく方針だ。執行役員 国内製造本部の神元俊憲副本部長は、「床材提案の幅そのものを大きく広げる商品として育てていく」と意気込む。

初年度は戸建て住宅のLDKなど意匠性を重視する市場を中心に展開し、将来的には床と関連する造作材への展開や、非住宅・リフォーム市場への投入も視野に入れる。物件ごとのオリジナルデザイン対応など、従来の枠を超えた空間提案にも発展させる方針だ。サイズは標準的な1×6尺で、価格は2P:5万500円/梱、6枚入り(3.3㎡)。天然素材やシート材と差別化した高意匠・高付加価値床材として、2029年度には非住宅なども含め年間30万㎡の販売を目指す。職人不足と本物志向のニーズが高まる住宅業界において、デザイン性と施工性を両立した「アーティオ」は、これまでの床材の常識を覆す存在となりそうだ。



ヘリンボーン柄の「アーティオ」を手にするDAIKEN執行役員 国内製造本部 神元俊憲副本部長

新刊

公共住宅建設工事共通仕様書
機材の品質性能基準(令和7年度版)



6月30日
発売